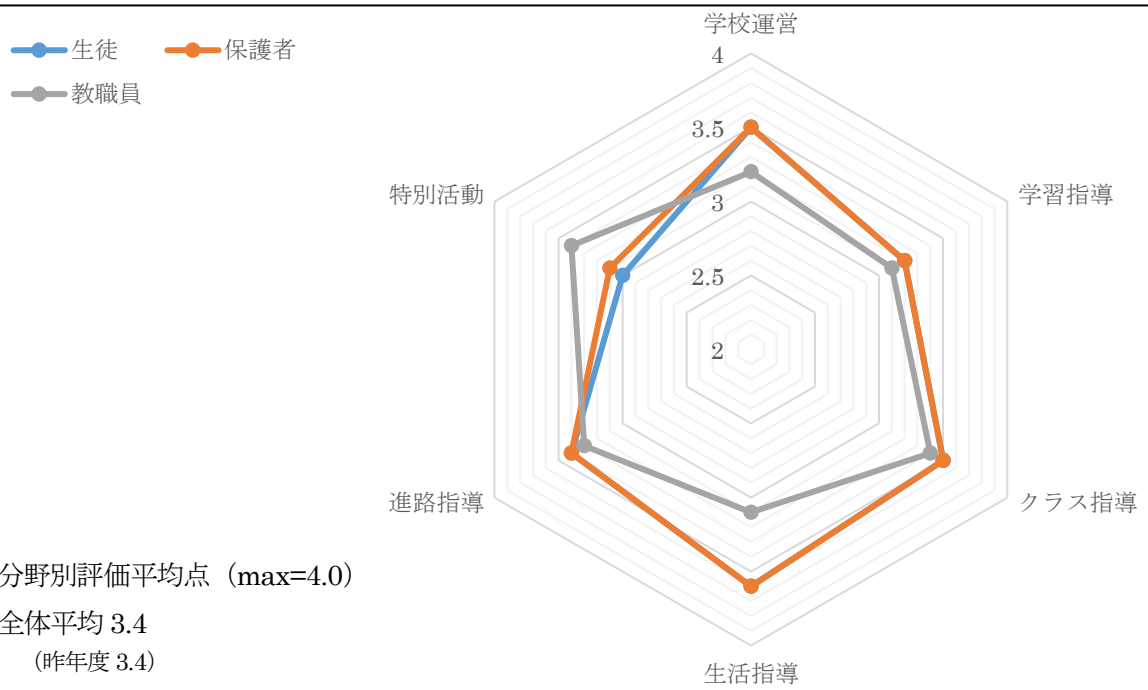
1．2022 年度　学校評価結果



分野別評価平均点（max=4.0）

全体平均 3.4

（昨年度 3.4）

2．学校自己評価－４段階評価－

分野／評価	重点目標	成果と課題	改善点とこれから目指すこと
学校運営 ★★★☆ 3．5 生徒　3.5 保護者 3.5 教職員 3.2 昨年度3．5	学校運営方針の重点目標を実践する。 成果を点検し、問題点の改善・改革に努める。	・学校運営方針にある「一人ひとりの希望や夢に柔軟に応える指導を行う」ことについて、多くの生徒・保護者から理解を得ている。 ・通信制・単位制における特色ある教育への理解・評価が高い傾向にあった。 ・付属高校としての教育また教育環境について評価は高いが、様々な改善・改革が進んでいるので生徒・保護者への周知がさらに必要であるとともに、生徒一人一人が付属高校としてのスケールメリットを十分に活用できるような指導を目指したい。 ・学校方針や教育目標を明確にし、関係諸法令の明示・公表を実施し透明性を図ることに努めた。教職員は本校の特色への理解を更に深めることが大切である。	「東海大学付属」として一貫教育を学習指導・進路指導の柱とし、通信制・単位制による学習・行事」を通して人間性を高める教育を充実していく。 また、日本の通信制高校の先駆けとして、個々の生徒に応じた指導の更なる充実、単位制のシステム、科目の開講や質に、改善・改革を行い、内容について、生徒・保護者に対してしっかり情報を発信していく。 今後は教育活動全般について、生徒が学校生活における充実感向上を実感できる取り組みの工夫が必要である。
学習指導 ★★★☆ 3．2 生徒　3.2 保護者 3.2 教職員 3．1 昨年度3．2	基礎学力の定着および向上をはかる。 通信制教育の基本である「自学自習・自考」を促す支援、指導を積極的に行う。	・生徒が自ら学び習い、自ら考える力が養っていくことができるような授業（通信教育講座や面接指導等）の方法や内容の工夫を行っており、概ね生徒・保護者からは理解を得られている。 ・高校通信教育講座およびスクーリング登校日での学習指導等を通して、学力の向上は生徒・保護者から概ね好感を得ている。一方で、課題への取り組みだけでなく、生徒が自らの問いに応えられるような関係づくりに力を入れて行き、そこから自主的な学びに発展していけるように働きかけていく必要がある。 ・ICT を活用した学習システムにより、更なる学力の向上とそれを促すことのできるコミュニケーションを目指したい。	東海大学進学を学習指導の方針の核として、基本的な知識の獲得とともに、生徒の興味や関心を大切にしながら、それぞれの基礎学力の定着をはかっていく。各教科の通信教育講座やスクーリング等の改善・改革により、単位の修得・学力の向上についての指導を行っていく。また主体的・対話的な深い学びに向けた更なる授業改善を目指すとともに、自学自習の学び（自ら取り組む学習習慣）が身に着けられるように指導していく。

分野／評価	重点目標	成果と課題	改善点とこれから目指すこと
年次・クラス指導 ★★★½ 3.5 生徒　3.5 保護者 3.5 教職員 3.4 昨年度３.４	教員と生徒・保護者および生徒間の良好な信頼関係を育む。	・生徒・保護者の多くは、本校への帰属意識をもち、教職員と生徒、生徒同士という人間関係について、良好であると感じている。 ・生徒・保護者の多くは、教員や友人が相談に応じられる環境にあると実感している。本校では、悩みや問題等を抱える生徒にカウンセラーとも協力し指導を行っている。 ・特に年次・クラスを通じて生徒・保護者とより良い環境を持つことができた。多様な生徒が在籍する本校において、教職員は相談しやすい関係を築くことが大切である。今後も温かい人間関係に留意した学校運営や一人一人の生徒へのきめ細かい指導を積極的に取り組んでいくことが大切である。	個に応じた学習・進路指導を展開しながらも、ＨＲや学校行事を通して様々な活動を行い、緩やかな集団の一員としての自覚を育む。また生徒や保護者の悩みや問題に早期に気づき、相談や助言を行うことができるように、教職員全体で対応していく。面談・保護者会等を通じて、保護者との情報交換を積極的に展開し、生徒の成長・自律に向けたきめ細かな協働的な関係性の構築を目指す。
生活指導 ★★★½ 3.6 生徒　3.6 保護者 3.6 教職員 3.1 昨年度３.６	基本的な生活習慣を確立する。 人としてのモラル・マナーの向上に努める。	・礼儀や挨拶、服装・頭髪については、ＨＲや授業をはじめ様々な場面で指導を行っているが、特に生活面での個に応じた指導は生徒・保護者の意識も高く評価も概ね良好である。また、個に応じた指導の中でも、生徒は集団において、他の生徒への思いやりを持ち、積極的にマナーやモラルについて自ら考え行動しようとする意識の高さを感じる。 ・一方で多様な生徒の校内での居場所が求められており、学習や行事など様々な活動を通して、集団の中で、規範意識や公共心を高めていく必要がある。	多くの生徒たちは礼儀・挨拶などの基本的なことを育み、服装や頭髪等についても高校生として規範意識がある。今後も生徒への声かけを、教職員全体で行い、意識の向上をはかっていく。 登校時には、個々の生徒が自立して過ごすことのできる「空間」づくりとより良い時間の過ごし方の指導を行っていく。あいさつ・マナーの指導などきめ 細やかな生徒指導を行い、基本的な生活習慣の確立に努める
進路指導 ★★★½ 3.4 生徒 3.4 保護者 3.4 教職員 3.3 昨年度３.５	進路指導の充実をはかる。	・単位制による履修科目の選択が適切に指導されていると、生徒・保護者は概ね感じている。 ・多様な生徒の特性をふまえた進路相談・進路説明会などの情報提供についても概ね良好と感じている。 ・東海大学進学に向けて、１年次より進路指導部と年次が連携して計画的に指導を行い、３２名が東海大学に進学している。 ・各自が単位修得を積み重ねていく中で、生徒の自己意識と取り組みを高めていく必要がある。また、基礎力を養う学習を基本に据え、進学などより柔軟に対応できる学習指導を図ることが大切である。	学習指導・生活指導・進路指導などの柱に、キャリア教育があることを教職員は認識を深め、通信制におけるキャリア教育を展開していく。また東海大学との一貫教育の強みを活かして、様々な活動を通して考える力を養い、個々の生徒がしっかりした将来設計をすることができるように生徒のキャリアプランを立案するための知識とスキルの育成の充実を図りたい。
特別指導 ★★★☆ 3.0 生徒 3.0 保護者 3.1 教職員 3.4 昨年度３.１	校外活動・生徒会活動・部活動に関わることで人間性を育む。	・指定された登校日には多くの生徒が学校生活にきちんと取り組めていた。特に HR では、年次ごとの目標に応じた活動内容で実施し、生徒たちの取り組みも良かった。 ・本年度はコロナ禍で感染症対策を実施しながら学園オリンピックをはじめとする学園行事や本校行事が実施することができた。 ・希望者が参加する委員会や部活動などを有効に利用できると期待感を生徒・保護者から感じることできる。今後はこの期待に応えられるようさらに充実した学校生活を過ごすことを目標に、多くの生徒の参加意識を高める工夫が必要である。 ・通信制高校として生徒が意欲的に活動できる場面を設定していくことが必要である。	生徒自ら取り組むこと・自己達成感・集団生活など、人間性を育む場面となる校外学習活動や行事の充実を図る。また、生徒・保護者への効果的な周知方法への工夫も検討していく。 学園のスケールメリットを感じられるような行事参加への指導も行っていく。 さらに今後は教育活動全般について、生徒が学校生活における充実感向上を実感できる取り組みに工 夫が必要である。

３．教育活動自己評価－４段階評価

教科	重点目標	成果と課題	改善点とこれから目指すこと
国語 2.6	日本語の的確な理解力、思考力、表現力を育成しつつ、文化の担い手としての言語感覚を磨く。背景にある文化や歴史への理解を深めるとともに、異なるものに対する想像力を高め、主体的かつ客観的な思考力を涵養する。	基礎的な文章の読解力・表現力が身についた。一つの作品を通して、興味関心の幅を広げ、広く社会や自己を見つめ直すきっかけとなった。学んだことを家庭で共有し思索を深める生徒もおり、家庭における対話も視野に入れて学習を展開することもできよう。	レポートの提出で終了しがちな学習を、身近な他者との対話に持ち込めるよう、日常に落とし込む仕掛けを考えたい。
地理歴史 2.6	広い視野に立ち，グローバル化する国 際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民 としての資質・能力を，小・中学校社会科ではその基礎をそれぞれ育成する	身近な問題や世界で起こっている問題について自ら調べるようになった。物事を詳しく調べ内容理解を深めるということが以前よりもできるようになったが、生徒同士の意見交換等、主体的・対話的で深い学びの時間を確保することが難しかった。	主体的・対話的で深い学びを可能な限りできるように、ロイロノート等 ICT のよりよい活用を目指す。
公民 2.6	社会的な見方・考え方を働かせ，現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通 して，広い視野に立ち，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国 家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成すること を目指す。	なぜその法律ができたのか、など物事を深く考える力、社会的事象や現代社会用語などの単語の意味を理解し考察する力が身についた。また、ロイロノートなどの使用で生徒同士の意見交換等、主体的・対話的で深い学びを体感できるような活動もできた。さらに身につけたことを生徒それぞれの生活に結び付けていけるように展開していきたい。	引き続き、社会の基本的な現象や用語などの理解を深められるよう丁寧な授業展開を目指す。その上で、社会や人生の課題について自分事として捉え考えられるような学習展開を目指す。
数学 2.6	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的な活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成する。	数学的な見方・考え方を生かしながら、知識・な技能を習得し、習得したものを活用することができた。また、事象を数量や図形の関係に着目して、論理的に考えることができた。	より広い領域や複雑な事象の問題を解決するための思考力、判断力、表現力の育成を目指す。
理科 2.7	科学的な事物・現象に関わり、科学の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察・実験を行うことなどを通し、さまざまな科学的な現象を研究するために必要な概念や原理・法則の理解を深め、資質・能力・技能・力・態度を育成することを目指す。	「科学」に対しての興味を持つ生徒が多く、しっかりと自学自習がなされていることがうかがえた。また、興味を持つ生徒はきっかけがつかめると、自分自身で興味を持って探究する姿勢が身についている。生徒の探究心をさらに向上させるような努力をしていきたい。	通信制という学習システムの中で、限られた時間と空間で「物理・化学・生物・科学と人間生活」における実験をどのように展開していくかをさらに検討し、実施していきたい。
保健体育 2.6	【体育】 心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成することを目指す。 【保健】 個人及び社会生活における健康・安全に関する理解を通して健康についての総合的な認識を深め，保健の見方・考え方を働かせ，生涯を通じて自他や社会の健康に関する課題を解決していくための資質や能力の育成を図ることを目指す	【体育】 運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度がみられた。新しい活動に自らアンテナを張り、能動的に運動する意識を持つことを目指す。 【保健】 生活における健康・安全に関する内容を理解させることができた。知識は、保健の見方・考え方，生涯を通じて社会の健康に関する課題を解決していくための力を養わせることができなかった。	【体育】 提供できる情報は限られているため、自ら関りを得続けるためには、もっと楽しさや心地よさを体感することも必要。通信制という学習システムの中で運動の意義の伝達に留まらず、実際に身体を動かすことにつながる指導を目指す。 【保健】 スクーリングの中でグループワークなどを通して、対話的で主体的な学びを実践することが求められる。難易度はかなり高いが、知識の伝達だけになるような授業展開を改善していきたい。

教科	重点目標	成果と課題	改善点とこれから目指すこと
芸術 3.0	【音楽】世界各国の音楽に触れ、国による音楽の違いを知る。作曲家の生涯に触れ理解を深める。音楽史を学び音楽の変遷を学ぶ。これらにより音楽知識の幅を広げる。 【美術】美術に関する専門的で幅広く多様な内容について理解を深めるとともに，独創的・創造的に表すことができるようにする。美術に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせ，創造的な思考力，判断力，表現力等を育成する。 【書道】書道の幅広い活動を通して，書に関する見方・考え方を働かせ，生活や社会の中の文字や書，書の伝統と文化と幅広 く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。中国や日本の古典に触れ、書道を愛好する心情を育成し、表現能力の習熟や鑑賞力を伸ばす。	【音楽】楽譜を追うこと、五線上の音の高さ、音符の長さ、拍子などの音楽要素を養うことができた。 【美術】デッサン、アクションペインティング、木版画を通して自分のイメージを抽象表現することができた。 【書道】初唐の三大家のひとりと言われる欧陽詢の厳正な楷書の美しさを学び、点・角のはっきりした縦に長い(背勢)、丸みのある穏やかな線(向勢)について養えた。	【音楽】スクーリング時に楽器等を使用して、グループセッションを取り入れる。 【美術】ロイロノートを利用してデジタルの作品の提出も進める。 【書道】スクーリング時に添削レポートでは伝わりにくい筆づかいや姿勢などに重点を置いて指導する。
外国語 2.6	言語活動の 4 技能（聞く、話す、読む、書く）をバランスよく育成する。語句・文法事項の習得に加え、発話すること、会話する技術を高め、自分の考えや気持ちを表現できるようにする。また異なる文化への関心や理解を深める。	音読の音声をレポートに添付して提出する課題により、講座を視聴しながら声を出し意欲的に練習した。英語を話すことに慣れ、自信をつけた。各段階に応じて、自分の気持ちや意見を書くことができた。ALT のサポートがあり異文化を理解しようとする態度を養えた。	音読から発展した課題に対しても段階に応じて難易度を調整しながら展開していきたい。対話的な学びをスクーリングで実践する方法の研究が必要である。
家庭 2.6	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ，実践的・体験的な学習活動を通して，様々な人々と協働し，よりよい社会の構築に向けて，男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	食生活、衣生活、経済生活などの生活のマネジメント力を養えた。青年期の課題と自立について考察し、家庭や地域の生活を創造する資質・能力を養えた。	学習を通じて身につけた知識と養った力が、生徒一人一人の実生活につながり、活用することのできる生活者を育成することを目指す。
情報 2.7	情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解させ，情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集，処理，表現するとともに効果的にコミュニケーションを行う能力を養い，情報社会に積極的に参画する態度を育てる。	Google Blocky による機器制御のプログラミングを行いコンピュータの仕組みを養い、Excel を使用してコンピュータによるデータ処理手法を学ぶことで効率的で正確なデータ処理能力の基礎を身に着けた。	情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる力や情報モラル等，情報活用能力を含む学習を一層充実させる。 また、生徒の卒業後の進路等を問わず、情報の科学的な理解に裏打ちされた情報活用能力を育む。

４． 2022 年度　学校基本データ

【学校名】東海大学付属望星高等学校（通信制）

【所在地】東京都渋谷区富ヶ谷２－１０－７（〒１５１－００６３）
ＴＥＬ０３－３４６７－８１１１
ＦＡＸ０３－３４６７－８１１４

【創　設】１９５９年４月開設（東海大学付属高等学校通信部として）
１９６３年４月設立（東海大学付属望星高等学校として）

【理事長】松 前 義 昭（マツマエ　ヨシアキ）

【校　長】吾 妻 俊 治（アヅマ　トシハル）

【課　程】通信制・普通科

【全生徒数・クラス数】　合計１５２２名

年次	AW		C		技能教育７施設	
	生徒数	クラス	生徒数	クラス	生徒数	クラス
１年次	７４名	４組	４名	１組	４３２名	１７組
２年次	１３４名	４組	２名	１組	３４１名	１７組
３年次以上	２１６名	６組	１６名	１組	３２５名	１７組
計	４２４名	１３組	２２名	３組	１０９８名	５１組

２０２２．５．１現在

※その他科目履修生等クラス設定有

【教職員数】
校長　１
校長代理　１
教頭・事務長代理　１
専任教員　２３
特任教員　１
講師　１９（東京地区技能教育３施設含む、※技能教育７施設は７５）
事務職員　４（特任１名含）

【卒業者数】　卒業生数　本校１４７人、（協力・提携校１２人、技能連携３１７人）
（２０２２年度末累積　３４，７０３人）

【進路状況】〈本校〉
東海大学３２人、他大学４７人、短大５人、専門学校２２人、就職２人

2023 年 3 月 31 日現在

５．２０２２年度 学校運営方針

創立者松前重義博士は、教育の機会均等を目指して、ＦＭ放送を利用した通信制高等学校を多くの困難を乗り越えて１９５９年本校を開校した。１９６３年４月付属高等学校通信教育部から、付属望星高等学校となり、その後、衛星放送、インターネット放送と時代の流れやメディアの進化とともに配信のスタイルも変化してきた。この半世紀、存続にかかわるような多くの困難に直面しながらも、これまでの多くの教職員・在校生の教育・学習への熱意により、「建学の精神」に基づく教育理念のもと、柔軟な教育体制・教育システムを構築しながら、今日に至っている。

２０２１年４月より新校舎での教育活動が開始された。校舎規模、スクーリング開講日などが変更し、新たな形態による教育活動が、この１年間大きな問題なく展開されたことは、教職員の結束、尽力によるものである。

本校は、東海大学の付属高等学校として、また唯一の通信制高等学校として、大学進学を目的とした難度の高い教育指導から、基礎学力を養成する教育指導まで、幅広い層に適応した教育環境の提供。規定数のスクーリング以外にも、レポート作成指導や進路指導等を受けることができるなど、大学付属の望星高校にしかできない、生徒・保護者一人ひとりの希望や夢に柔軟に応え、将来への夢を描ける高校を目指すことは大切にする必要がある。

これまで通信制高等学校が、全日制高等学校での通学が困難な生徒へのセ-フティーネットとしての役割を担う一方、これからは通信制高校にあっても、より質の高い教育への転換が求められている。このような通信制教育変革の時代においても、本校がパイオニアとしての役割を果たしていかなければならない。

私たちはこれまで、様々な目的や事情を抱えながらも、本校に学びの場を求める人々に広く門戸を開き、「教育の指針四か条」、校旗の意味する「愛」と「正義」の精神、これら「建学の精神」のもと、日常の教育活動に取り組んできた。今後も学園創設の原点と、本校の存在意義を決して見失うことなく、教育に邁進していかなければならない。生徒自らが「生きる力」を身につけ、自己の夢や希望を抱くことのできる教育を展開すべく、「２０２２年度学校運営方針」を提示する。

１．基本方針

（１）「高校現代文明論」を中心とした教育の推進と定着

東海大学がめざす教育の基本理念は「人と社会と自然が共生する新しい文明社会の構築」である。「高校現代文明論」は、文系・理系の領域を融合した幅広い知識と国際性豊かな視野を育成し、教養ある現代市民として調和のとれた文明社会の建設に大きな役割を果たせる人材育成の基盤となる教育課程の核となる科目である。広域通信制・単位制の特色を活かし、「高校現代文明論」を中心に据え、学習指導・生活指導・進路指導、課外活動、道徳教育などを通して「自ら考え、自ら学ぶ」態度の育成を図るために、個々の生徒の人格形成や将来の夢の実現につながる教育を全教員で積極的に推進する。

（２）高校通信教育講座を柱とする指導内容の更なる改善

①現在の高校通信教育講座の内容の更なる充実を図るとともに、レポート添削、スクーリングなどの教育活動を通じて、多様な課題を抱える生徒の成長に努める。

②大学受験により対応できる講座・サポート学習の拡充・精査を図るとともに、基礎力不足の生徒への対応をも考えていかなければならない。

③技能教育施設との協力関係をより深め、充実した学習指導を実践する。

④新たな通信教育の連携・提携を推進する。

（３）高等学校学習指導要領の改訂に伴う教育の改善を具体的に実行する。

①「教師が何を教えたか」の教育から、「生徒が何を学んだか」への転換

②ＩＣＴ教育環境等を積極的に活用し、「主体的な学び」「深い学び」「対話的な学び」の実現に向け、研究・実践を推進する。

③各教科・科目の目標や内容に照らして、生徒の実現状況がどのようなものであるかを、観点ごとに評価し、生徒の学習状況を分析的に捉える、観点別学習評価を実施する。

（４）関連諸法令等の改正への対応を滞りなく行う。

①スクールポリシーの公表

②通信教育実施計画の作成および明示

③技能教育施設を含む学校評価の公表

（５）第三者評価の導入により顕在化した課題等を十分に検証し、改善をはかる